



「海、いかない？」  
 夏休み最後の日、進学クラスで  
 一緒に柴村魅蓮が言った。  
 自習で開放された教室を二人  
 きりでぬけて、海へ向かう  
 閑散とした電車にのった。

盆明けの海水浴場は結構人がいて、  
 受験で陰鬱とした僕らの日々と違い、  
 あからさまに晴れやかだった。  
 「あんまし、ジロジロ見んなつ  
 まぶしい白いビキニの柴村さんは  
 クソ童貞の俺には眩し過ぎる。」

# 柴村さんと 夏やすみ

2025夏特別号  
 CELEBRATION  
 月刊



# 中に お見舞い

2025.8  
 CELEBRATION

製作・著作 つじもが町に殺ってきた  
 無断転載、無断頒布、無断使用を禁止します

「今夜さあ  
ウチ誰もいないんだよね…」

たぶろ

来るかどうか聞かれたのかも  
覚えていない。僕は彼女に  
ついていき、生まれて初めて  
女の子の人と一つ家の下で一夜を  
明かした。



紫村さんの体は、想像して日よりずっと大人で  
やわらかくてたまらなく甘いにおいがしていた。

……  
キンチョーするね……



学校のトイレで紫村さんが塾の  
大人達にレイプされる妄想でオナ  
ニーした。僕の知らないところで  
彼女がセックスしているかもしれ  
ない。そう思うだけで、鬱勃起が  
とまらない…。

おらッ紫村あ！  
精液だすぞッ！  
ウッ！

あつやべッ  
でるっ  
あう  
あう

しむらあ！  
でるよっ！

いやっ！  
いやああ！

うろうっ  
パイオツに  
だすぞッ！おッ！

下品な乳  
しやがつてッ！

あひい！  
ゆるしてえ！

あっ！  
あっ！

でるでるっ！  
紫村の脚に  
でるう！  
ウッ！ウッ！

今夜からはネトラレ妄想で  
彼女をオナネタにしようかな…

まほい 2025.8.18  
tsujireg